

平成28年度 全国学力・学習状況調査—中学校の結果分析について—

＜○概ねできている点 ●課題のある点 ☆指導改善のポイント＞

国語科

【国語A】

- 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すことについては、概ねできている。
 - 和歌に表れた作者の思いを想像することについては、概ねできている。
 - 文脈に即して漢字を正しく読むことについては、概ねできている。
 - 文字の形や大きさ、配列に注意して書くことについて課題がある。
 - 文の成分の照応について理解し、文章を書き直した意図を考えることについて課題がある。
- ☆言語に関する基礎的・基本的な知識を確実に身に付けられるよう評価や支援の工夫をしながら指導を行う。さらに、習得した知識を様々な場面で活用できるように、相手意識・場面意識を明確にして「話すこと」「書くこと」の指導へつなげていく。

【国語B】

- 目的に応じて必要な情報を読み取ることについては、概ねできている。
 - 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることについて課題がある。
 - 必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、無解答率が高く、正答率からも課題であると言える。
- ☆普段の授業の中に書く活動を意図的に繰り返し設定することや、思考する時間を十分に確保しながら長文を書く指導を行うことで、書くことに対する抵抗感を軽減させる。また、自分の意見を述べる際には、その根拠となる記述や情報を併せて明らかにするよう繰り返し指導する。

数学科

【数学A】

- 正負の数の加法の計算、多項式の加法の計算、 $A = B = C$ の形の方程式を2つの二元一次方程式で表すことについては、概ねできている。
 - 比例の表を完成させることについては、概ねできている。
 - 特に関数分野に課題が残った。反比例のグラフから式を求める問題、一次関数の変化の割合・変域の問題で無解答率が20%を超え、正答率も県を大きく下回った。
 - 比例式の立式と最頻値を求める問題で課題が残った。
- ☆「反比例のグラフから式を求める」「一次関数の式を見て変化の割合を答える」「一次関数のグラフを見て変域を求める」「比例式の利用」は、いずれも基礎的基本的な問題である。練習量を確保する。「最頻値」は、意味と求め方を確実に理解させる。

【数学B】

- 全ての問題で県平均を下回る結果となった。特に6(2)の記述問題(「数あてゲーム」：式による説明)は、半数近くが無解答である。
- ☆日頃の授業から、根拠を明らかにして自分の考えを述べるような機会を意図的に設ける。また、問題文が長い(読解力を必要とする)ものにも慣れさせる。